

●資料1「数値目標及び参考指標」について

<A 委員>

p.2 表 1-1 に単位を入れた方が良い。

<事務局>

追記する。

<A 委員>

色付きトレーの店頭回収の現状は。色付きでも資源化できるのか。

<事務局>

店頭回収しているスーパーもあり、資源化可能だと認識している。事業者に対する回収のお願いも必要になってくると思う。

<B 委員>

エフピコ（食品トレー容器製造業者）以外が色付きトレーを回収しているのか。

米子市は白色のトレーしか回収していないのはなぜか。

<事務局>

知る限りでは、エフピコの回収ルートで色付きトレーが回収されている。

本市ではトレー以外のものが混入する恐れがあるため白色に限定している。

<B 委員>

参考資料1の総排出量について、国目標値 850g/人・日に対し米子市の目標値は 870g/人・日だが、どうして国の目標値に達していないのか。

最終処分率について、令和7年度の目標値が令和元年度と同じで良いのか。

<事務局>

総排出量目標値については、平成26年度から令和元年度の実績よりも高い目標としており、これ以上の減量は難しいと考える。

最終処分率については、令和元年度の数値が既に低い値であるため、現状維持としたもの。

<C 委員>

（最終処分率について）クリーンセンターと同程度の施設との比較があると分かると思うが。

<事務局>

用意していない。

<D 委員>

細かい数字の理解が難しい。

事業者に対しては、事業者と米子市の役割分担を決めた方がうまくいくのでは。

<E 委員>

数値目標が覚えられない。市民の皆さんにはまずリサイクルできるものを分別してもらうように分別の重要性を周知するのが大事だと思っている。

<C 委員>

今、議論していただくのは基本計画の内容。皆さんの意見は今後の啓発において大事な意見であるが、基本計画の数値は基となるものである。

<F 委員>

今は PDCA のプランの段階で数値は必要である。だが、数値設定理由が理解しにくい。根拠を分かりやすくする工夫が必要ではないか。

●資料2「循環型社会実現のための施策」について

○1 家庭系ごみ対策

<B 委員>

「熱回収」(資料2 p.4) の意味は。

<事務局>

熱回収はごみを焼却した際の熱で電気や温水を作ること。

○2 事業系ごみ対策

<事務局>

資料2 p.5 ●事業者別の排出量分析、●多量排出事業者への取組内の「多量排出事業者」についてはそれぞれ「認定」ではなく「指定」、「定め」に修正する。

多量排出事業者だけでなく、優良事業者認定制度を導入してはどうかと意見をいただいている。導入について検討したい。

<B 委員>

グリーン購入(資料2 p.6) の意味は。

<事務局>

グリーン購入は環境に配慮した製品(エコマークの付いた製品など)を購入しようとする取組。

<F 委員>

資料2 p.6 市役所の取組について、市の ISO14001 (環境マネジメントシステム) への取組は。

<事務局>

以前は ISO に取り組んでいたが、現在は独自の実行計画に切り替え同様の取組を行っている。

○3 食品ロスの削減

<G 委員>

資料2 p.8 の啓発、周知はどういった方法で行うのか。

<事務局>

資料2 p.11 参照。啓発については、ごみカレンダー、ホームページ、よなごみ等を活用。また、小・中学生、高校生のほか、公民館講座や自治会説明会等を通して市民に積極的に情報発信していきたい。

<H 委員>

3010 運動(資料2 p.8) とは。周知は。

<事務局>

全国的な取組で、鳥取県でポスターを作成され、市も商工会議所等を通じてポスター配布している。市民にはカレンダーなどで広報している。

<H 委員>

良い取組だと思うので、周知をしてほしい。

○4 本市の実情に応じたごみ処理システムの構築

<B 委員>

資料2 p.9 について、バイオマスプラスチック袋は海で溶けるわけではない。バイオマスだから良いというのはどうか。

<事務局>

バイオマスプラスチックと生分解性プラスチックは異なる物。バイオマスプラスチックは環境負荷が小さいということで導入されている。

<D 委員>

バイオマスプラスチックは燃やすとCO₂が多く出ると聞く。今の段階でバイオマスプラスチック袋の利用を推奨とするのは大丈夫か。

<事務局>

現在、バイオマスプラスチック袋については店舗で販売していないこともあり、「調査、研究」と表記を変えることも検討する。

<I 委員>

レジ袋は海洋中でマイクロプラスチックになるのが問題となっている。研究が進んでいるところだが、バイオマスプラスチックの推進は必要では。

<J 委員>

プラスチックの削減が課題。東部では袋を使わないコンテナ収集を行っている。他の自治体の取組を参考に今後の検討を進めてほしい。

<B 委員>

ペットボトルを出すのに袋に入れないといけない。検討してほしい。

<A 委員>

店頭回収に出せば袋がいらない。

<K 委員>

高齢者・障がい者対策（資料2 p.10）について、地方と大都市では事情が異なる。国のガイドラインに寄らず米子市に合った施策を行ってほしい。

<事務局>

ガイドラインに加え、市内のNPOなどの活動についても入れる方向で検討したい。

<D 委員>

自治会の取組も重要である。自治連合会とも協議をしてほしい。

<I 委員>

高齢者問題については、他部署と連携を進めていただければ。

○5 普及啓発・環境教育の推進

意見なし

○6 災害廃棄物対策

意見なし

○7 不法投棄・ポイ捨て対策

<A 委員>

ポイ捨て（資料2 p.12）について、きれいにするのが当たり前という雰囲気を作っていくのも重要だと思う。

○8 海岸漂着物対策

意見なし

●資料3 「その他ごみの処理に関し必要な事項」について

意見なし

●資料4 「計画の推進」について

意見なし